

日十月三

常磐毎日新聞

定価 一月五十五銭 郵税五銭
 零售 五銭
 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 六二〇番



湯狸の仇討

シナリオ
 原作 江見水蔭
 脚色 木津茂太郎

【四】

半三郎膳部の前にすわ
 る。
 これは一杯傾けずには
 むられぬて……
 お照酌をする。
 半三郎盃を傾ける。
 もう一日。
 湯の峯に——
 決して娘の美しさに打
 込んで——ではない。
 と心に締りをつけるだ
 け實は身体に緩みが生
 じたのであつた。
 半三郎の部屋。
 半三郎、備前の鹽漬の
 者といふ隠居と暮をう
 つてゐる。
 しばらくして、勝負は
 決して、茶を入れて世
 間話になる。
 隠居いふ。
 貴郎様はお見込まれに
 なりましたな。
 おどろく半郎。
 えつ。見込まれたとは
 笑ふ隠居。
 よく物語などに魔物に
 見込まれたと言ふ事は
 ありますが、そんな氣
 持の悪いのとは違つて

貴郎様は美しい人にお
 見込まれになりました
 と云つて隠居わらふ。
 この室内屋は熊野切つ
 ての大金持。
 何も温泉宿なんぞせず
 とも持山からだけでも
 非常な揚りがあるので
 御座いますよ。その室
 内屋が煙を採つてゐる
 煙草の煙を吹きかけて
 置く汚點にならぬ。
 衣類に酒
 をこぼし
 た時は直
 ので。貴郎様はその條
 件に適合してゐるらし
 く、おかみもお氣に入
 り、言ふまでもなく娘
 さんもお見染になつた
 今に必ずその話がある
 で御座いませうよ。
 半三郎。
 隠居。
 條件の一つは士族であ
 ること。
 明治になつて四民平等
 になつたのを幸ひに、
 昔ならば一寸難しかつ
 た武家との縁組を實現
 したいと云ふらしい
 ので。
 半三郎。
 いや私は他家相續は出
 来ない。養子に行く身
 分で御座らぬで。
 隠居。

その邊はどうにでも成
 りませう。娘の方から
 嫁入りといふ名目で、
 矢張貴郎様が此方へ入
 り込んでゐらつしやつ
 て、お出来になつたお
 子さんを、貴郎のお家
 の御相續になされたら
 隠居。
 二日。三日と半三郎、
 かれこれ一週り程滞在
 した。
 娘とは——。
 半三郎が立つてゐる。
 其處へ娘お照が来る。
 お照艶然と笑ふ。半三
 郎に抱き付く。半三郎
 おどろいて、それがお
 照と知つてやはり笑ふ
 ふたりは歩き初める。
 明日の献立——
 【朝】 すまし わかめ
 【晝】 ごまあへ 人参
 【晩】 旨煮 半べんうど
 手を組んで。
 これが世に云ふ。
 戀——だつたらうか。
 たそがれ時分。
 半三郎の部屋。
 半三郎ねころんで本を
 讀んでゐる。
 藥師堂の坊主の顔。
 口もと。
 室内屋さ——シ
 お客様ぢや——。

御贈答に
 記念品に
 諸景品に!!!!!!

漆器を!!!

誠實勉強
 親切第一
 在庫豊富

専門の
 是非御用命を
 ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ
 ル、ヌリモノミセ
 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各國産漆器
 専門卸小賣
 漆器店

店員募集
 十三才位 小 店員
 三十才迄位 外 交員

三河産業博覽會
 昭和产业博覽會
 金牌受賞

かまぼこ製造

お惣菜用
 さつま揚
 吉原揚

一本孫寅

平町一丁目
 電話一四一番

産婆、看護婦
 生徒募集

今、入學の好時期
 ……御希望の方は至急御申込みを……
 新學期は四月八日より

平南町

産婆學校
 校長 清野 清子
 電話三〇七番

旭硝子株式會社製品
 赤菱印

板ガラス

製造賣販
 硝子食器
 其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

トモテモ面白
 不思議ナ玩具

大人も子供も白熱的大歡迎
 ヨーヨーが來ました

世界的流行玩具 一金五錢
 十錢

平野前 いづみや玩具店

吸入用酸素純度99%

モノサシ
 マス
 ハカリ

体温器
 寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

譽れの家庭

一家から数名 軍人を出した

賞勳局長から表彰さる

石城郡下の一家から多数の家忠勇の軍人を出した譽れの家庭として下條賞勳局長から表彰状及び賞杯を添えて授與され光榮に浴するは左記の諸氏と決定したが今回が第一回であり更らに目下調査人選中であるから第二回の発表が近くある由

- ▽四名(木杯一ヶ)
- 大野村 草野利之助
- 草野村 渡邊道太郎
- 磐崎村 柴田 平吉
- 夏井村 矢吹 幸輔
- 草野村 阿部 伊六
- 平窪村 江尻 勝治
- ▽五名(木杯一組)
- 平窪村 矢吹 長一
- 同 矢吹 常松
- 上小川 草野四郎平

野菜類の 早マキ奨励

農試分場が 研究の結果

石城郡神谷農事試験分場では従来郡下農村の茄子胡瓜南瓜等野菜類の播種期が遅れ氣味である爲め收穫期の取引に非常な不利を來す事に鑑み早蒔に就いて研究の結果郡下の氣候には茄子は二月下旬頃が最も適當であり遅くも本月十五日迄に済まして差支へなく胡瓜、南瓜等も十五日前後に播種するが發育上好適である事が明らかとなつたので従來各農家で行ふ三月廿日前後の播種を極力繰上げて早蒔する事の宣傳に努めて居る

更生指導

講習題目

本縣主催國民更生指導講習會は来る十五十六の兩日平第二小學校に開催郡下各町村吏員及び小學教員其他に聴講せしめるが希望者は十二日迄各町村役場に申込れ度いと尚兩日の講師及び演題左の如くである

(國民更生に就いて) 村田 宇一郎(農村榮養改善) 松本好一

上遠野村 養鶏組合

縣から補助

石城郡上遠野村養鶏組合は最近共同育鶏場設置其他に依つて優良組合と認められ此程縣より四十五圓の補助を支給される事になつた

農事傳習

修得證授與

石城郡神谷農事試験分場では昨年開催せる農事特別傳習會出席者五十六名に對し本日午前十時より修得證の授與式を舉行した

出來得る限りの 復興計劃を迫る

暴風雨に打ちのめされた 濱三郡の漁濱救済

昨年十一月の大暴風雨で漁船や漁具を奪はれた濱三郡の漁濱救済に依る農林省の助成金は覺東ない模様なので井上、野崎、山田の三縣議は最後の手段として縣債十萬圓を起し低利資金十二萬圓と合して出來得る限り復興計劃を實施されたが旨にて目下縣に猛運動中であると

拂下米完了

風水害地へ

濱三郡風水害地救済の政府拂下米を巽に六千俵配給し残る十九ヶ村は本日五千六百俵分の代金を納入する事になつたが是れで災害地の政府拂下米配給は全部完了すると

木炭組合解散

新たに生産者組合を

濱三郡木炭組合は木炭検査が六月から縣營に移管されるので十五、六日頃役員會を開き同月迄に解散する事となり今後は商業法に依る生産者組合を結成する方針らしいと

公民教育講座

出席申込受付

既報来る十四日より十七日迄平第三小學校にて催され

平町人喜

回出生

- △長橋町三一 宮崎信一氏
- 長女千恵子
- △立町十 中山託吉氏二女 孝子
- △仲間町六九 川上龍三郎氏長男純一
- △搔樋小路二九 國井留藏氏四男薫
- △舊城跡二七 坂本豊長氏三男博
- △回 婚 姻
- △石城郡湯本町字三箇一三七 柴田三郎(三三)南町 五二 古川ナヲ(二八)
- △回 死 亡
- △紺屋町六六 當時石城郡字小館三五片野嘉子(三ツ)
- △番匠町四十 當時山梨縣南都留郡谷村町藤城富之進(八五)

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が

自由に讀める 川崎巡 回文庫

早込次第(規則書准呈) 電六三〇番

イヤ！君！
いゝ冬服を求めたね
断然三三年型だよ
いやコレカネ！
例の……「リレ」



四六三電通場車停日丁四平

毎度御ひいき
有難ふ御座ります

うなぎの御用命は

うなぎ 奴

平町田町(電話二三番)
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町
電話五〇七番

江戸前料理 食卓

見習さん募集

十五歳より二十歳迄

錦

水

電話四五四番

迷信が手傳ふ

醫療類似の行爲を

平署大々的に取締

加持祈禱など嚴重禁止

近時不況の深刻化と共に迷信も伴ひ宗教その他これに類似するもの、加持祈禱或ひは呪禁等諸種のいはゆる醫療類似行爲者が横行しわが國衛生上害毒を流す外人命を遂には害ふものも多いので平警察署では今後警察犯處罰命令を嚴重に活用して加持祈禱呪禁等を禁ずる即ち現在各方面に横行してゐるこれ等の行爲は地方民の迷信も大部

分に手傳つてゐるが明かに醫療を妨げんとする傾向があり加持祈禱呪禁或ひは御禮御水等を渡して全快を斷言したり就中醫療類似行爲者は誇大虚偽の廣告をなして人を迷はしめる結果傳染病の猖獗或ひは人命に危険なる結果を感起させる危険が多いので今後現在より以上に徹底的に取り締ることになつたのであると

震災地

義捐金は

平町千圓の豫定

既報平町の三陸地方救済金募集に就いて昨日午後六時より會議室に各區長及び各種團體代表が參集協議した結果市内廿七區が夫々寄附を募集し總額千圓以上の義捐金を贈る事となつたが廿日迄に送金すべく早くも本日より募集に着手した

小名濱義捐金 石城郡小名濱小學校では三陸地

江名町議

總辭職が

愈々具体化する

既報町議改選期の六月は漁場繁忙期の爲め改選期日を

結婚を反對されて

青年が悲觀の家出

石城郡上小川村字江田農宗形義助三男由次郎(三)は豫て懇ろにして居た同字村上ユミ(二)との結婚を両親に反對されたのを悲觀して七日の夜家出しユミ方へ立寄つた處ユミは不在だつたので其儘獨り行衛を晦した爲め本日父親から平署に捜査方を願出た

東京まで

テント旅行

石城郡錦村中堅農民學校では生徒廿四名が荒木教師引卒の許に徒歩のテント旅行を爲す事となり本日校門を出發したが十四日に東京に着き校長である貴族院議員金成通氏の案内で鳩山文相や後藤農相を訪問十九日に汽車で歸校する豫定である

内郷からも

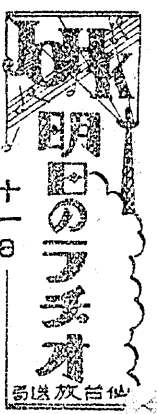
災害地寄附

石城郡内郷村字綴の杉山今朝吉氏は三陸地方義捐金として同氏經營の杉山炭礦坑夫百餘名と共に三十圓を寄附したが同字の料理店山口屋事山口甚六氏も同業者間と打合の上物品の寄附をなすべく目下募集中である

見失つた

子供平署に

石城郡内郷村宮居住内海五郎(三)は昨日午後四時頃三男次郎(七)を連れ平町で用途の歸途乗合自動車を持



今晩の部
六、〇〇(子供の時間)お話「陸軍記念日に當り小國民諸君に告ぐ」陸軍大臣陸軍中將 荒木貞夫
後七、三〇 講演 藤村夫外
「輝く陸軍」藤村夫外

前二、〇〇 家庭大學講座「ラスキンの女性觀(終) 御木本隆三
後五、三五 少年少女職業指導講座(機械職工になるには) 宗義雄
後六、〇〇 子供の時間

前二、〇〇 家庭大學講座「中學入學に關し父兄への注意」東京市立第一中學校長 四宮茂
後三、〇〇 五滿州より(錦州より中繼)
後二、〇〇 家庭大學講座「ラスキンの女性觀(終) 御木本隆三
後五、三五 少年少女職業指導講座(機械職工になるには) 宗義雄
後六、〇〇 子供の時間

ハルモニカ 日本大學ハルモニカコンソイテイ指揮 矢島三千男
後七、三〇 講演 中央氣象象技師 國富信一
後八、〇〇 浪花節「清水次郎長」武藏野榮華嬢
八、三〇 俳詠 平野すみ江外
後九、〇〇 映畫物語「上州無宿三浦屋孫三郎」犬養一郎 伴奏指揮 栗原重一

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

回職を求める方
△採炭夫 二十四歳 尋卒
給料面談(伊達郡某)
△發動機取扱 二十八歳 高卒 給料面談(内郷村某)
△コック 十九歳 高卒 給料面談(平町某)
△雑役 二十四歳 高卒 給料面談(平町某)
△菓子職 四十九歳 高卒 給料面談(田村郡某)

平職業紹介所報告
回人を求める方
△女中 十六歳以上 尋卒 給料面談(平町某)
△雑夫 三十五歳 尋卒 月十圓位(小名濱町某)
△豆腐賣子 四十歳 尋卒 賣上の五割(平町某)
△農夫 五十歳迄 年六十圓位(玉川村某)



磐城セメント會社特約店
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は人の生命なり
セメント 材料 磐城セメント株式會社
壁用材料 代理店 西村屋藥舗
ペンキ塗料 平町二丁目 電話三
板ガラス

素来の剣道

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫
佐々木 見山

第二百八十七席

間違ひ起るとも知らず

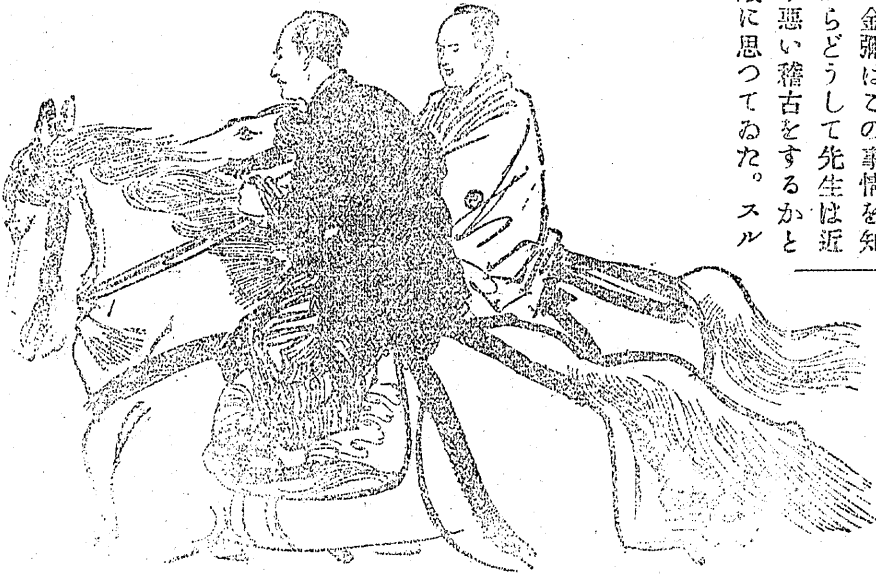
菊地大六は松崎采女の妹を以ては定まる夫があると思ひ、ハツタと怒り、そは何者かとデリ／＼と詰め寄つてその舉動を見て采女がとんだ事を云つたと後悔したものがうなづつては相手を秘す事は出来ない

松「先づ先生氣をしづめてお聞き下さい、そでの夫と致す者は渡邊金彌に御座います」

大「なんと申す、渡邊がおそで殿の許婚か」

松「左様にございます、幼年の頃より睦じくさながら兄妹のやうでございましたおそでも彼を慕ひ、金彌もおそでも慕つて居りました年頃もふさはしく本年の秋に興入をいたすことになつて居ります、斯様なわけで誠に先生にはお氣の毒でございますが、無き縁とおあきらめ下さい」

大「其は甚だ残念な事であるが、渡邊方を破談して拙者方へ参ることもなるまいどうもよんどころない、あゝ遺憾至極何事も天命でござる」と歎息した。是以、渡邊



金彌をなんとなく憎く思ふ汝れ戀のおたきとそれゆゑに打つ金彌はこの事情を知らぬからどうして先生は近頃かう悪い稽古をするかと不思議に思つてゐた。スル

と云つたは、花見に行くから馬を借りるとも云へずそこで使に行くと任命申した。馬「それは御苦勞さまでございます、渡邊さまもお出でになりますか」

松「松風に小櫻がよからう馬「これは殿様の御秘藏の馬でございます、何れも南部屋でございますが、あなた方に乗れますか」

松「失禮な事を云ふな、この馬取ることがならずして拜借出来るか」

松「イヤ立花侯へ参るは歸りにいたす」

松「それは何處へ行きませう」

松「飛鳥山へ行く」

松「お供をいたしませう」

松「イヤ／＼供をいたすには及ばん」

馬「それでもお供をするのはわたくしの役でございます、御一緒に参りませう」

と云はれて馬丁を伴れて行けば花見に行くこともわかると云つて、斷ればとて承知いたすまい、途中で乗出して駆けを追い馬丁を置いて行かうと

松「デハ供をいたせ」

トツ／＼と乗出した、馬丁二人は馬に附いて行く。赤羽橋の邸を出て飯倉から芝の久保町にかゝりお蔭に沿いて一直線に大根河岸から京橋に出て日本橋から本町、それより今川橋を渡つて筋違ひ見付御成街道と来た。人通りが多いから二人とも馬を飛ばす事が出来ないスルと馬丁が

馬「松崎さま立花さまのお邸は御徒志町でございます、此處から右に切れませう、眞ッ直に行けば上野に出てしまひます」

松「松風は小櫻がよからう馬「これは殿様の御秘藏の馬でございます、何れも南部屋でございますが、あなた方に乗れますか」

松「失禮な事を云ふな、この馬取することがならずして拜借出来るか」

松「イヤ立花侯へ参るは歸りにいたす」

松「それは何處へ行きませう」

松「飛鳥山へ行く」

松「おまへさん方は人が悪い、殿様の御用だと云つて御乗馬を拜借して飛鳥山へ花見に出かけるとは、この事は御重役には内密にして置きますが、わたくし供に飲ましておくんない」

松「それは承知した、實は此處まで来るうちに貴様達や置き去りにするつもりであつたが、通行人多き爲にその目的を果すことが出来なんだ」

馬「そんな事だらうと思つた、わたくし共の隙を見ては駆けを追いやうに思はれました」

金銀高價買入
平町二丁目(三幸堂跡)
根本時計店
電話六〇七番

外科 X 光線科
性病科
外科
入院 隨院 意
平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

斯界の權威!!!
大塚の靴
自生編上靴 六圓
女學生半靴 五圓
紳士靴 流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

上田外科醫院
平町南町
電話二二九番

文部大臣平陽女學校 入學案内
認可附設平陽家政學校
一、入學生徒募集人員
本科(修業年限二年)五十名 師範科(同上)三十名
技藝高等科(同上)五十名 技藝普通科(同上)五十名
専攻科(同一年)二十名 専修科(同一年以上)五十名
一、授業料値下と各科の授業料
本校は經濟界の不況に鑑み各科授業料の値下を斷行しました
本科一圓五十錢 師範科一圓五十錢 技藝高等科一圓三十錢 専攻科一圓五十錢 技藝普通科五十錢 専修科一圓
一、入學手續
志願者は入學願書に履歷書を添え三月三十一日迄に本校宛提出して下さい
受附順により入學を許可致します
石城郡平町
文部大臣認可附設
平陽女學校
平陽家政女學校
電話四四五番
振替口座仙臺五六八二番